清盛を取り巻く人間模様

平氏

清盛の息子・娘

平重盛
1138～1179
清盛の長男で母は高階基章の娘。順調に出世し後白河法皇の近臣となる。清盛からの信頼も厚かったが42歳で病没。

平宗盛
1147–1185
清盛の三男で母は時子。清盛の死後、平氏の棟梁になった。

平知盛
1152-1185
清盛の四男で母は時子。清盛の没後、兄・宗盛を助け以仁王の乱を鎮圧させた。

平重衡
1157-1185
清盛の五男で母は時子。武勇に優れたが以仁王の乱後、彼らを支持した興福寺と東大寺を焼き打ちし、以降仏敵と非難される。

平忠盛
1096～1153
清盛の父（清盛の実父は白河法皇という説も）。白河・鳥羽両院政のもとで軍事の中心になって活躍。日宋貿易などで巨万の富を築き、平氏繁栄の基礎を築く。保元の乱の3年前に死去。

親子

平盛子
1156–1179
清盛の娘。関白・藤原基実と結婚するも未亡人となり、摂関家の莫大な遺領をすべて相続。清盛が後見した。

平徳子
（建礼門院）
1155–?
清盛の次女で母は時子。高倉天皇の中宮になり皇子を出産（後の安徳天皇）。夫の死後に建礼門院の院号を受ける。一門を栄華の頂点に押し上げる。

親子?

平清盛
1118～1181
平氏の棟梁として臨んだ保元の乱、続く平治の乱で源義朝を抑えて勝利し一門を繁栄に導く。怒涛の出世を遂げ、出家後も娘・徳子を高倉天皇の后とし一門の繁栄を図るが、鹿ヶ谷事件を機に後白河との対立が深刻化。

夫婦

平時子
（二位尼）
1126～1185
清盛の妻。妹の滋子（建春門院）が生んだ憲仁親王（のちの高倉天皇）の乳母となる。清盛亡き後は平氏一門の精神的支柱に。

姉弟

平時忠
1127～1189
姉・時子は清盛の妻、妹・滋子は後白河上皇に入内。平氏政権の重要な地位を占めた。

兄妹

平滋子
（建春門院）
1142～1176
後白河上皇に嫁ぎ後の高倉天皇を生む。清盛と後白河の関係を繋ぐ紐帯となり、平氏一門の権力拡大に貢献。滋子の没後、後白河と清盛の関係が悪化。

入内

源氏

打倒平氏

助命

源頼朝
1147～1199
義朝の三男。平治の乱後、池禅尼の願いで清盛に助命され伊豆に配流。以仁王の呼びかけで挙兵し、壇ノ浦の戦いで平氏を滅亡に追いやる。

源義朝
1123～1160
源為義の長男で頼朝・義経らの父。藤原信頼と結び、平治の乱を起こすも失敗。逃亡先で身内の裏切りに遭い謀殺される。

親子

親子

異母兄弟

武蔵坊弁慶
?～1189
比叡山西塔で修行するが、後に源義経の従臣となる。

源義経
1159～1189
義朝の九男で母は常盤御前。頼朝の挙兵に参じ、義仲・平氏討伐に功績を上げるも頼朝に睨まれてしまう。

従兄

従弟

当初は取り立てるも後に頼朝に追討させる

木曽(源)義仲 1154～1184
倶利伽羅峠の戦いで平氏を破って入京するも、頼朝の命で義経らに討たれる。

源頼政 1104～1180
平治の乱で平氏に寝返った。1180年に以仁王を奉じて平氏を滅ぼそうと挙兵するが敗北。

結託

巧みなパワーゲームでやりあう

兄・源頼朝を討つようにけしかけるが失敗

朝廷

協調のちに敵対

寵愛

後白河法皇
1127～1192
第77代天皇。鳥羽天皇の第4皇子。異母弟・近衛天皇の逝去後、器量がないとの周囲の評判をはねのけ即位。平清盛の力を利用しながら30年以上にわたり院政を行った。

以仁王
1151～1180
後白河の第三皇子。1180年、皇位継承の望みを断たれた不満もあり、源頼政の勧めに従い平氏追討の武装蜂起を促す。

二条天皇
1143～1165
第78代天皇。後白河の第一皇子。在位中、父・後白河法皇の院政に対し、政治の主導権を握ろうとするも早逝。

六条天皇 1164～1176
二条天皇親政派と後白河上皇院政派との対立に翻弄された幼帝。

高倉天皇
1161～1181
第80代天皇。後白河の第七皇子で母は平滋子。平清盛の隆盛時に在位し、清盛の娘・平徳子を中宮とした。

安徳天皇
1178～1185
第81代天皇。高倉天皇の皇子で母は平徳子。3歳で即位し、外祖父・清盛が後見人として権勢を振るう。

鹿ヶ谷事件

院近臣 俊寛
生没年不詳
村上源氏源雅俊の孫で法勝寺の執行。後白河法皇に仕え、藤原成親・西光らと平氏討滅の謀議を企てる。

※上皇・法皇…上皇とは、子や孫などに譲位した後の天皇の称号。法皇とは、上皇が出家した後の称号を指す。

※史実について諸説あり、ここでは、その一例を掲載しています。本パンフレットの内容の一部または全部について、いかなる方法においても無断で複写、複製することを禁じます。
平成24年6月　発行:京都市産業観光局観光MICE推進室　〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　TEL:075(222)4133　FAX:075(213)2022
企画・編集・制作:株式会社電通、株式会社新創社　監修:京都市歴史資料館 宇野日出生　協力:京阪電気鉄道(株)　京都市印刷物　第243032号

平清盛の京を歩く

保元・平治の乱を終結させ、武士の王となった平清盛は、日本の覇者としての階段を駆け上がっていく。一門の繁栄から没落、そして夢のあと。京を訪ねる旅へ。

TAIRANO KIYOMORI

平清盛の京を歩く　検索
http://kanko.city.kyoto.lg.jp/kiyomori/

保元・平治の乱の勝利後、
平清盛
栄華の絶頂、そして夢の終わり

位人臣を極め、天皇の外祖父に、そして平家独裁政権を樹立。
権勢の頂点を極めるも清盛の死後、待っていたのは――

保元合戦図屏風（馬の博物館蔵）

平治の乱からおよそ7年後。太政大臣に任じられ、権勢を極める!

天皇の後継争いから始まった「保元の乱」「平治の乱」を収束させた清盛は、都の軍事・警察機能を掌握する「武家の棟梁」となり、中央政界をも左右する存在に成長を遂げていった。乱の翌年には正三位に昇進。それまで貴族の護衛役に過ぎなかった武士が初めて上級貴族の仲間入りをし、そのおよそ7年後には官位の最高位・太政大臣に任命された。背景には院政で権力を振るう後白河法皇との協調関係があったという。

だが大きすぎる力は次第に両者の関係に暗い影を落とすこととなる。2人の溝を決定的にしたのが「鹿ヶ谷事件」だ。後白河法皇の側近が、貴族中心の政治を取り戻すため平家打倒の謀議を企てたこの事件の背後で糸を引いていたのは法皇自身だった。事件を機に始まった平家追い落としは長男・重盛の死を機に苛烈さを増し、堪忍袋の緒が切れた清盛は娘・徳子（後の建礼門院）が生んだ高倉天皇の皇子（後の安徳天皇）を立て、自ら天皇の後見人として政権を掌握しようと決意するのである。

治承3年のクーデター決行!武士が初めてこの国の頂点に立つも…

クーデターは治承3年（1179）11月14日に決行された。清盛は福原（現・兵庫県神戸市）から数千騎の武士を率いて上洛。後白河法皇を鳥羽殿に幽閉して院政を停止させ、院近臣を解任。空席になった高位高官のポストを平家一門が独占し、ここに平家独裁政権が誕生した。さらに後白河法皇派の知行国や荘園を没収し、日本の国土の約半分を一門の支配下に収めたのである。

しかし、栄華を極めてからの転落はあまりに早すぎた。伝統的な貴族社会の中に入り、武士である一門を優遇する清盛のやり方は朝廷内部を始め多くの敵を作り上げた。反撃の口火を切ったのは、後白河法皇の息子・以仁王である。全国の源氏や大社寺に平家打倒を呼びかけた挙兵は失敗に終わったものの、この反乱が源頼朝や木曽（源）義仲など各地の源氏勢の蜂起に繋がった。

ひっ迫した情勢下で、さらなる悲劇が平家を襲う。一族の精神的支柱である清盛が帰らぬ人となるのである。棟梁の座は三男の宗盛が継ぐが、各地で相次ぐ反乱に対処できずに次第に追い詰められていった。やがて平家は木曽（源）義仲に敗北し京を追われ、再起を誓い壇ノ浦で最後の戦いに臨むも一族もろとも海の底へと消えていく。それは、清盛の死からわずか4年後のことである。そして建久3年（1192）、源頼朝による武家政権・鎌倉幕府が発足。約400年の永きに渡る平安時代は幕を下ろしたのだった。

平 清盛　盛衰ストーリー

1118年（元永元年）	1歳	平忠盛の嫡子（長男）として生まれる。
1120年（保安元年）	3歳	清盛の生母死去。
1129年（大治4年）	12歳	従五位下に任ぜられる。
1132年（長承元年）	15歳	父・忠盛が武士として初めて昇殿を許される。
1135年（保延元年）	18歳	父・忠盛の西国海賊追討の恩賞の譲りで従四位下を任ぜられる。
1137年（保延3年）	20歳	父・忠盛が熊野本宮を造営した功により、清盛は肥後守を任ぜられる。
1138年（保延4年）	21歳	これより以前、高階基章の娘と結婚するが死別。その後、平時子と再婚。
1146年（久安2年）	29歳	安芸守を任ぜられ、瀬戸内の制海権を得る。
1147年（久安3年）	30歳	祇園社で闘乱事件を起こす。
1153年（仁平3年）	36歳	父・忠盛死去し、平氏の棟梁を継ぐ。
1156年（保元元年）	39歳	保元の乱 勃発 後白河天皇側につき源義朝とともに源為義、平忠正らを討つ。勲功賞で播磨守を任じられる。
1159年（平治元年）	42歳	平治の乱 勃発 源義朝と戦い勝利。武士の王となる。
1160年（永暦元年）	43歳	後白河上皇に命じられ、新熊野神社を造営。
1161年（応保元年）	44歳	中納言に任ぜられる。後白河上皇に嫁いだ妻の妹・滋子が、皇子（高倉天皇）を生む。
1165年（永万元年）	48歳	二条天皇、崩御。
1167年（仁安2年）	50歳	太政大臣を任じられるが、3か月で辞任。
1168年（仁安3年）	51歳	熱病に苦しめられる。その後、出家する。 厳島神社を大規模に造営する。
1169年（仁安4年）	52歳	福原（現・神戸）に別荘を造営し、住まいとする。
1170年（嘉応2年）	53歳	後白河法皇を福原に迎え、中国・宋の特使と面会する。
1173年（承安3年）	56歳	大輪田泊に人工島・経が島竣工。
1177年（治承元年）	60歳	鹿ヶ谷の陰謀 発覚 平家に対立する院近臣を一掃し、後白河法皇との対立が深刻化。
1179年（治承3年）	62歳	長男・重盛死去。 清盛、後白河法皇を幽閉、院政を停止する。
1180年（治承4年）	63歳	京都から福原への遷都を断行するが、6か月で還都する。 源頼朝が伊豆で挙兵。富士川の戦いで平家軍敗走。
1181年（治承5年）	64歳	熱病に倒れ死去。

清盛が助命した義経が少年時代を過ごした

鞍馬寺

奈良時代に創建の古刹で、平安時代は都の北方守護の寺として信仰を集めた。平治の乱の後、清盛により助命された源義経は7歳で鞍馬寺の別当・東光坊阿闍梨蓮忍に預けられ、禅林坊阿闍梨覚日の弟子となり遮那王と名乗った。奥州平泉に旅立つ16歳までここで過ごしたとされる。鞍馬の山中には義経公背比べ石や木の根道など、義経ゆかりの古跡が残る。

左京区鞍馬本町1074　TEL 075-741-2003
●叡山電車「鞍馬」駅下車

建礼門院徳子の祈り　P6へ

平家滅亡後、建礼門院徳子が隠棲した大原を歩く

●寂光院　●おぼろの清水
●建礼門院大原西陵

女たちの悲恋　P5へ

清盛が愛した祇王、仏御前…嵐山・嵯峨野で悲恋の足跡を歩く

●祇王寺　●小督塚　●法輪寺
●滝口寺　●琴聴橋

延暦寺との戦いを望まず…　P6へ

京の鬼門を鎮護する霊山、延暦寺を訪ねる

●比叡山延暦寺

平家滅亡への序章　P4へ

平家打倒の謀議「鹿ヶ谷事件」ゆかりの地と壇ノ浦の戦いのその後を歩く

＜岡崎エリア＞
●平安神宮
●俊寛僧都故居碑（満願寺）
●白河院 並びに 法勝寺跡
●金戒光明寺（黒谷さん）
●俊寛山荘跡（鹿ヶ谷）

＜八坂エリア＞
●八坂神社
●長楽寺
●八坂の塔（法観寺）・木曽義仲首塚

清盛の栄華　P3へ

徳子、六波羅で安徳天皇を出産。平家一門の繁栄の名残を歩く

●新熊野神社　●小松谷 正林寺
●法住寺　●六波羅蜜寺
●蓮華王院（三十三間堂）　●六道珍皇寺
●蓮光寺 駒止地蔵

橋合戦、宇治川合戦　P6へ

源平、二度に渡る合戦の地、宇治を歩く

●宇治橋　●平等院
●宇治川先陣の碑

孫との微笑ましいエピソードが残る

西八条

仁安元年（1166）頃、鴨東の六波羅に対し、西の交通の要衝に壮大な清盛の邸宅・西八条第が営まれた。周辺には頼盛・重盛・宗盛など一族が集住したという。

●市バス「梅小路公園前」バス停下車

西八条第跡

清盛の邸宅である西八条第跡。「山槐記（さんかいき）」によると、清盛の娘・徳子が生んだ2歳の言仁親王（後の安徳天皇）が西八条第に行啓した際、清盛は終日微笑みを絶やさず孫と戯れ感涙にむせんだという。

梅小路公園とJR京都線と嵯峨野線の線路敷地

若一神社

平安末期、平清盛の邸宅である西八条第を建てた際、敷地内の鎮守社として紀州熊野の若一王子を祀ったのが始まり。社前にある大楠は清盛の手植えと伝えられ、西八条第が火災にあっても焼け残った。

下京区七条御所ノ内本町98番地　TEL 075-313-8928
●市バス「西大路八条」バス停下車

源氏の厚い信仰を受けた 石清水八幡宮

京都の鬼門（北東）を守る延暦寺に対し、京都の裏鬼門（南西）を守護する社。八幡宮は源氏の氏神として知られ、源義家（頼朝の曾祖父）はここ石清水八幡宮で元服し「八幡太郎」と名乗ったという。12歳の時に従五位に任じられた平清盛は、臨時大祭で奉納神楽（かぐら）の舞人を演じたそうだ。源頼朝のお手植えと伝わる松の2代目がある。

八幡市八幡高坊30　TEL 075-981-3001　●京阪電車「八幡市」駅から男山ケーブルに乗り換え「男山山上」駅下車

六波羅エリア

清盛の栄華

徳子、六波羅で安徳天皇を出産。平家一門の繁栄の名残を歩く

鴨川東岸の五条から七条にかけて広がる一帯は六波羅と呼ばれ、六波羅蜜寺周辺には、六波羅第と呼ばれる一門の屋敷が数千の規模で建ち並び軍事拠点としても発展したという。一門の権威を最高潮に高めた清盛の娘・徳子（後の建礼門院）の皇子（後の安徳天皇）もここ六波羅で誕生した。さらに六波羅のすぐ南には後白河法皇の離宮「法住寺殿」が営まれ、敷地内には清盛が法皇のために寄進した「三十三間堂」が建立された。界隈に残る平家繁栄の名残を歩く。

❶新熊野神社

熊野信仰の盛んな平安末期に後白河上皇が清盛に命じ、熊野の新宮・法住寺殿の鎮守社として造営させた。熊野より土砂材木等を運んで社殿を建て、神域に那智の浜の青白の小石が敷き詰められている。熊野から運ばれた境内の大樟は、後白河上皇の手植えと伝わる。

東山区今熊野椥ノ森町42　075-561-4892

❷法住寺

平安中期に建立。院政期には後白河法皇の政務拠点となり壮麗な離宮・法住寺殿が営まれ愛する平滋子との生活の舞台にもなった。法住寺合戦の際、院御所に攻め入った木曽（源）義仲は法皇に向かって矢を放つが当時の天台座主・明雲に当たり危うく命を落とすところ難を逃れた。そこから不動明王は「身代わり不動明王」と呼ばれている。

東山区三十三間堂廻り町655　075-561-4137

Start ①新熊野神社
↓ 徒歩約5分
②法住寺
↓ 徒歩すぐ
③蓮華王院（三十三間堂）
↓ 徒歩約14分
④小松谷 正林寺
↓ 徒歩約17分
⑤六波羅蜜寺
平氏六波羅第跡
↓ 徒歩約5分
⑥六道珍皇寺
↓ 徒歩約17分
Goal ⑦蓮光寺 駒止地蔵

❸蓮華王院（三十三間堂）

正式名は蓮華王院。後白河法皇が平清盛の資材協力を得て、院御所とした法住寺殿の中に創建したのが始まり。堂内陣の柱間の数が33あることから、三十三間堂と呼ばれるようになった。お堂は市中からの火災で焼失し、現存の建物は鎌倉期の再建。

東山区三十三間堂廻り町657
075-561-0467

❹小松谷 正林寺

平重盛の別邸跡。重盛が小松殿と呼ばれていたのはこの小松谷に邸宅を構えていたからだといわれる。重盛は仏教に深く帰依し、48の灯籠を灯したとされる灯籠堂をこの地に建立したことから「燈籠大臣」とも称された。

東山区渋谷通東大路東入三丁目上馬町553
075-541-8388

❺六波羅蜜寺

清盛の父・忠盛が境内に自軍を駐留させたことをきっかけに平氏の拠点に。清盛・重盛の頃にはおよそ5200もの一門の邸宅が建ち並んだといわれる。平安末期の兵火で本堂以外の諸堂は焼け落ちた。境内に供養塔の清盛塚があり、宝物館では平清盛坐像（重文）を展示。

東山区大和大路通五条上る東　075-561-6980

平氏六波羅第跡

平氏の邸宅・六波羅第跡を示す碑。清盛の娘・徳子が安徳天皇を生んだのもこの六波羅第。平家都落ちで火を放たれ、滅亡後は源頼朝が取り上げて京の宿所とした。

❻六道珍皇寺

寺のある界隈は葬送の道筋にあたっていたため、あの世とこの世の境として「六道の辻」と呼ばれていた。『平家物語』では平清盛が死去し「愛宕（おたぎ）」で荼毘に付したとの記述があるが、この愛宕が六道珍皇寺の付近であるといわれている。清盛の祖父・正盛は同寺で領地を借り受け、これが平氏の邸宅・六波羅第の始まりになったという。

東山区松原通東大路西入北側　075-561-4129

❼蓮光寺 駒止地蔵

駒止地蔵は弘法大師作と伝えられ、六条河原の刑場に祀られていたと伝わる。鴨川の氾濫で一時埋もれていたが、平清盛の乗った馬が近くを通った際、急に動けなくなり周辺を掘りおこした時に発見された。以来、駒止地蔵尊と呼ばれ信奉を集めるようになった。

下京区富小路通六条上る本塩竈町534
075-351-3066

アクセス

● 新熊野神社は市バス「今熊野」バス停から徒歩すぐ、JR・京阪電車「東福寺」駅から徒歩約8分
● 蓮光寺 駒止地蔵は市バス「河原町正面」バス停から徒歩約4分、京阪電車「清水五条」駅から徒歩約8分

岡崎・八坂エリア

平家滅亡への序章

平家打倒の謀議「鹿ヶ谷事件」ゆかりの地と壇ノ浦の戦いのその後を歩く

比類なき権力を手にした清盛だが、その栄華は長くは続かなかった。強大さを増す平家一門に対して反発を強めていく後白河法皇とその近臣。対立の火種は後白河法皇と清盛を繋ぐ建春門院滋子（清盛の妻時子の妹で後白河法皇の寵妃）の死を境に爆発する。そして平家討滅の謀議――「鹿ヶ谷事件」は起こった。没落の序章となった事件ゆかりの地と、華々しく散った壇ノ浦の戦いのその後を歩く。

▶岡崎エリア

❶平安神宮

平安京を遷都した桓武天皇と平安京最後の孝明天皇を祀る。社殿は平安京の朝堂院を約8分の5の規模で再現。拝殿は大極殿（古代の朝廷の正殿）を模し、いずれも当時の建築様式を採用しているので、当時の大内裏の雰囲気を体感できる。

左京区岡崎西天王町　075-761-0221

❷俊寛僧都故居碑（満願寺）

鹿ヶ谷事件の首謀者として鬼界ヶ島に流されて死亡した俊寛は法勝寺の執行だった。俊寛の居所である法勝寺の跡を示す石標が、岡崎の満願寺にある。境内には付近にあった法勝寺で使われていたとされる阿伽井（あかい）と呼ばれる井戸がある。

左京区岡崎法勝寺町130　075-771-4874

Start ①平安神宮
↓ 徒歩約5分
②俊寛僧都故居碑（満願寺）
↓ 徒歩約3分
③白河院 並びに 法勝寺跡
↓ 徒歩約10分
④金戒光明寺（黒谷さん）
↓ 徒歩約15分
Goal ⑤俊寛山荘跡（鹿ヶ谷）

岡崎エリア

Start ①八坂神社
↓ 徒歩約7分
②長楽寺
↓ 徒歩約11分
Goal ③八坂の塔（法観寺）・木曽義仲首塚

八坂エリア

アクセス

岡崎エリア

● 平安神宮は市バス「京都会館・美術館前」バス停から徒歩すぐ、京阪電車「神宮丸太町」駅から徒歩約16分
● 俊寛山荘跡（鹿ヶ谷）は市バス「錦林車庫前」バス停から徒歩約10分

八坂エリア

● 八坂神社は市バス「祇園」バス停から徒歩すぐ、京阪電車「祇園四条」駅から徒歩約5分
● 八坂の塔（法観寺）は市バス「東山安井」バス停から徒歩約5分、京阪電車「祇園四条」駅から徒歩約15分

❸白河院 並びに 法勝寺跡

白河院は藤原一族の別荘地として代々受け継がれてきたが、白河天皇に献上されると院内に法勝寺をはじめとする6つの寺院が建てられた。法勝寺には、およそ81mもの九重の巨塔が作られた。これらは地震や火災などにより失われた。

左京区岡崎法勝寺町

❹金戒光明寺（黒谷さん）

『平家物語』では、平重衡が一ノ谷の戦いで捕らわれの身となり、これまでの悪行を懺悔する姿を見て、法然が阿弥陀仏を唱えるよう諭し戒を授ける様子が描かれている。源氏の武将・熊谷直実は一ノ谷の戦いで我が子と同じ年頃だった平敦盛（清盛の弟・経盛の息子）を討ったことに対する後悔などから法然の弟子となり出家した。

左京区黒谷町121　075-771-2204

❺俊寛山荘跡（鹿ヶ谷）

平安末期、後白河法皇の近習僧・俊寛らが平家の横暴に憤慨し、平家を滅ぼそうと秘密会議を行った山荘跡。そのため付近は談合谷ともいわれる。多田行綱の密告により計画が発覚、俊寛は鬼界ヶ島に流されて死亡。霊鑑寺横に「此奥俊寛山荘地」の石碑が立つ。

左京区鹿ヶ谷御所ノ段町

◀八坂エリア

❸八坂の塔（法観寺）・木曽義仲首塚

臨済宗建仁寺派の寺院で八坂の塔は通称名。境内には木曽（源）義仲の首塚がある。義仲は寿永2年（1183）、倶利伽羅峠で平家の軍を破ったあと上洛。その後、征夷大将軍に任ぜられたが宇治で源範頼・義経の軍に敗れ近江の粟津で討死。拝観は不定期。

東山区清水八坂上町388
075-551-2417

❷長楽寺

桓武天皇の命で最澄が創建。清盛の娘・建礼門院徳子は、壇ノ浦の戦いで捕らえられた後ここで出家。境内には、髪を剃り出家した際の御髪塔といわれる建礼門院御塔が立つ。また、建礼門院徳子の法尼尊像や安徳天皇の御衣で作った仏幡などの寺宝は春季特別展開催時でのみ公開される。

東山区八坂鳥居前東入円山町626
075-561-0589

❶八坂神社

日本三大祭の一つ、7月の「祇園祭」は平安前期に疫病が流行した際、当社の神にお祈りしたのが始まりと伝わる。本殿の東側に『平家物語』巻六に書かれた白河法皇・平忠盛・祇園女御のエピソードにまつわる「忠盛燈籠」という石灯籠がある。

東山区祇園町北側625
075-561-6155

嵐山・嵯峨野エリア

女たちの悲恋

清盛が愛した祇王、仏御前…
嵐山・嵯峨野で悲恋の足跡を歩く

軍記物語である『平家物語』のなかで描かれる嵯峨野は、哀愁に満ちた男女のラブストーリーの舞台として特別な存在感を見せる。恋に苦しみ、人の世の無常を知り仏の道に生きることを決めた祇王や仏御前、愛する人を守るために身を隠した小督、恋しい人を追いかけ嵯峨野を訪ねた横笛……風光明媚な嵯峨野に眠る悲しい恋の記憶を辿る。

❶祇王寺

もとは法然の門弟・良鎮が建てた往生院で、一時廃寺ののちに祇王寺として再興。『平家物語』には都で評判の白拍子（歌舞を生業とする遊女）で清盛の寵愛を受けた祇王・祇女姉妹、姉妹の母・刀自、仏御前が出家のために入寺したと記されている。境内には清盛、祇王・祇女らの木像や祇王・祇女・刀自の墓所といわれる宝筐印塔、鎌倉時代のものとされる清盛の五輪の石塔がある。

右京区嵯峨鳥居本小坂町32　075-861-3574

祇王祇女仏刀自旧跡

祇王寺墓地の入口に立つ、『平家物語』に残されている逸話によると、清盛の寵愛が仏御前という別の白拍子へ移ると祇王・祇女姉妹は母・刀自とともに尼となり、往生院に庵を結び隠れ住むようになる。そこへ尼になった仏御前も訪ねて来て、4人は念仏三昧の日々を過ごしたという。この碑は4人の庵跡を示すものである。

Start ①祇王寺
祇王祇女仏刀自旧跡
↓ 徒歩すぐ
②滝口寺
↓ 徒歩約25分
③小督塚
↓ 徒歩すぐ
④琴聴橋
↓ 徒歩約8分
Goal ⑤法輪寺

❷滝口寺

『平家物語』の滝口入道と横笛ゆかりの地として伝わる寺で、旧往生院三宝寺という。滝口入道は宮中警護に当たる滝口（清涼殿の東北の詰所）の武士・斉藤時頼のこと。清盛の西八条殿で催された花見の宴で、建礼門院徳子に仕える横笛に一目惚れするが父に反対され往生院で出家。子院だった同寺で仏道修行に励んだ。横笛は訪ねて行くが、滝口入道の決意は固く会わずに追い帰したという。本堂には2人の木像が祀られ、境内に滝口入道と平家一門の供養塔や平重盛を祀る小松堂がある。

右京区嵯峨亀山町10-4　075-871-3929

アクセス
- 祇王寺は市バス「嵯峨釈迦堂前」バス停から徒歩約15分、JR「嵯峨嵐山」駅から徒歩約25分、嵐電（京福電車）「嵐山」駅から徒歩約23分、阪急「嵐山」駅から徒歩約35分
- 法輪寺は市バス「嵐山公園」バス停から徒歩約5分、JR「嵯峨嵐山」駅から徒歩約20分、嵐電（京福電車）「嵐山」駅から徒歩約15分、阪急「嵐山」駅から徒歩約6分

❺法輪寺

創建は奈良時代。『平家物語』では、嵯峨野に身を隠した小督を捜しに来た源仲国が、法輪寺近くで小督の爪弾く琴の音を聞いたという情景が描かれている。本尊に虚空蔵菩薩をお祀りし、数え年13歳の男女が智恵を授かるために虚空蔵菩薩に祈願する「十三（じゅうさん）まいり」で知られる。

西京区嵐山虚空蔵山町　075-862-0013

❹琴聴橋

高倉天皇の命により小督を捜しに来た源仲国が、月の美しい夜、小督の奏でる「想夫恋（そうふれん）」という琴の曲を聞いたとされるのがこのあたり。宮中に呼び戻された小督は帝の寵愛を受けるが平徳子より先に帝の子を宿したことで清盛の怒りを買い、尼にされ嵯峨野に再び隠棲する。

右京区嵐山渡月橋北西　車折神社嵐山頓宮前

❸小督塚

小督は高倉天皇の中宮・平徳子（清盛の娘・後の建礼門院）に仕えた宮中一の美女で琴の名手。小督は高倉天皇の寵愛を一身に受けたが、そのため徳子の父・清盛の怒りを買ってしまう。自身よりも帝に迷惑がかかると案じた小督は宮中を抜け出し嵯峨野に身を隠した。その仮住居がこの辺りにあったとされる。

右京区嵯峨天竜寺芒ノ馬場町

大原エリア

建礼門院徳子の祈り

平家滅亡後、建礼門院徳子が隠棲した大原を歩く

「壇ノ浦の戦い」で一門と共に滅びようと入水するも、一命を取り留めた清盛の娘・建礼門院徳子。高倉天皇に嫁ぎ、安徳天皇を生み一門を栄華の絶頂に導いたが、平家滅亡後は出家し一族の菩提を弔いながら生涯を終えた。『平家物語』では、大原に隠れ住んだ彼女を訪ねてきた後白河法皇に、自身の生涯を語る章で幕引きとなっている。

Start ①寂光院
↓ 徒歩すぐ
②建礼門院大原西陵
↓ 徒歩約5分
Goal ③おぼろの清水

アクセス
- 寂光院は京都バス「大原」バス停から徒歩約15分
- おぼろの清水は京都バス「大原」バス停から徒歩約10分

❶寂光院

聖徳太子が建立したと伝わり、本堂西側の庭園の心字池（汀の池）、千年の姫小松、苔むした石、汀の桜は『平家物語』当時の姿を留めているとされる。建礼門院徳子は東山の長楽寺で出家した後、寂光院に入寺し真如覚比丘尼となった。我が子・安徳天皇や一族の冥福を祈りながら、寺伝では建久2年（1191）2月15日逝去するまで終生をこの地で過ごした。

左京区大原草生町676　075-744-3341

❸おぼろの清水

寂光院と三千院を結ぶ細い道の脇にある。建礼門院徳子が都から寂光院へ移ってきた際、朧月夜（春の月光）が自分の姿をこの湧き水に映した。そのやつれた姿を見て自分の身の上を嘆いたという。

左京区大原草生町

❷建礼門院大原西陵

寂光院の門前手前の石畳を上った高台に建礼門院徳子の墓所がある。出家していた事もあり、鳥居の中に五輪塔がある珍しい仏教式御陵とされる。

左京区大原草生町

宇治エリア

橋合戦、宇治川合戦

源平、二度に渡る合戦の地、宇治を歩く

源平合戦の発端となった「以仁王の乱」は、後白河法皇の第3皇子・以仁王が全国の源氏や大社寺に打倒平家を呼び掛けたことに始まる。以仁王は宇治での「橋合戦」で敗北したが、ここから全国の源氏が蜂起した。そして4年後、平家を京から追い出すも後白河法皇に反目した木曽（源）義仲と、朝廷から義仲追討の命を受けた源義経が対決する「宇治川合戦」が巻き起こる。

Start ①宇治橋
↓ 徒歩すぐ
②宇治川先陣の碑
↓ 徒歩約9分
Goal ③平等院

アクセス
- 宇治橋は京阪電車「宇治」駅から徒歩すぐ、JR「宇治」駅から徒歩約8分
- 平等院は京阪電車「宇治」駅から徒歩約8分、JR「宇治」駅から徒歩約10分

❶宇治橋

日本最初の本格的橋梁で、現在のものは平成8年に建造。以仁王の軍勢に加勢した源頼政（平治の乱以降、平家に仕えていた）は、宇治橋の橋板を外して盾にし、川を挟んで平家軍と激しく戦ったという。

宇治市宇治

❷宇治川先陣の碑

激流を挟んだ宇治川合戦の幕は、義経の家来・佐々木四郎高綱と梶原景季が功を競って宇治川を渡る「先陣争い」から切って落とされた。その逸話を伝える碑。

宇治市宇治塔川・府立宇治公園（中の島）

❸平等院

※平成24年9月3日～平成26年3月31日まで、平成大修理のため鳳凰堂は拝観できません。

橋合戦で激戦の末に膝を矢で射られた源頼政が自害したのが、同寺院の「扇之芝」といわれている。塔頭の最勝院には、頼政の墓も立つ。

宇治市宇治蓮華116　0774-21-2861

比叡山延暦寺エリア

延暦寺との戦いを望まず…

京の鬼門を鎮護する霊山、延暦寺を訪ねる

白河法皇が「意のままにならぬもの」として天下三不如意の一つに挙げた比叡山延暦寺。国政にも影響を与える絶大な力を持ち、清盛をも恐れさせた仏法守護の聖地を訪ねる。

アクセス
- 延暦寺は叡山電車「八瀬比叡山口」駅から叡山ケーブル→叡山ロープウェイ→比叡山内シャトルバス「延暦寺バスセンター」バス停から徒歩すぐ（東塔）

比叡山延暦寺

平安時代初期、最澄が開いた天台宗の総本山。京都・滋賀にまたがる比叡山全域を境内とし東塔（とうどう）、西塔（さいとう）、横川（よかわ）の3つの地域に200余りの堂宇が点在する。平安京の北東の鬼門を守り、その影響力はたびたび『平家物語』の中でも描かれている。平家打倒の謀議、「鹿ヶ谷事件」は後白河法皇が対立関係にあった延暦寺と清盛をぶつけることで両者の力をそごうとした目論みに対し、清盛が武力衝突を避けるためにでっち上げたという説がある。

滋賀県大津市坂本本町4220　077-578-0001